



【令和2年度災害対処訓練】

令和2年11月21日

【令和2年度災害対処訓練】

令和2年11月21日（土）自衛隊札幌病院（病院長：大鹿陸将）は、道央地域（札幌市）における大規模地震を想定した災害対処訓練を実施し、災害時に基幹となり得る医療機関としての能力向上を図った。

訓練に先立ち、職員1人1人がアクションカード（災害時におけるそれぞれの職務における活動内容）を作成するとともに、図上訓練を実施して、発災後の行動についてイメージアップを図り本訓練に臨んだ。訓練は、7時57分に月寒断層を震源地とする震度6以上の地震が発生し、ライフラインの途絶や交通機関が一部麻痺している状況で開始され、「初動対処要領の確立」「業務継続計画の検証」「救急医療基盤の向上」「新型コロナウイルス感染症を考慮した大量傷者チームの運用」について検証した。計画段階から人員配置要領の検討や必要な資・器材等を見積もることの重要性を再認識するとともに、各部課等の連携要領を具体化するなど、じ後の業務継続計画の即応性及び実効性向上の資を得た。また、本訓練には北部方面総監（前田陸将）による現地指導及び北部方面総監部医務官以下3名の研修をいただいた。

現地指導後には、北部方面総監から病院の対応要領についてご指導を賜り、じ後の訓練の資とした。



発災直後の子弟預かりのための受付



子弟預かり所の開設



作戦会議



大量傷者の受け入れ



大量傷者の受け入れ



北部方面総監、研修者との意見交換